

# 親子で本を楽しもう!

子どもたちのより豊かな成長を願い、読書の楽しさや素晴らしさを伝える取り組みの一環として、「かめおかっこの夢・未来 読書フェスティバル」を開催しました。

第2回目の今回は、絵本「あらしのよるに」の作者さむらゆういちさんの講演・サイン会や、世界の寓話(ぐうわ)ソップから「北風と太陽」「カニのお



絵本の読み聞かせに夢中の子どもたち

きむらさんの講演会に親子で参加した吉田沙織さん(北町)は、「あらしのよるに」は私が子どもの頃に出会った絵本です。読み返すと、温かみのある絵だけでなく、絵本のテーマにもあらためて感動しました。今の子どもたちにもそんな素敵な絵本に出会ってほしいです」と話されていました。

亀岡市では、これからも読書を通じて親子が楽しく健康やかに成長していける機会を提供していきます。

# 自然エネルギーについて考えよう!

11月15日、文化資料館

第4次亀岡市総合計画「夢ビジョン」シンボルプロジェクト「自然・文化次代継承チームは、自然エネルギーについて参加者と一緒に考える「エネカフェ」自然エネルギーでここまでできる」を開催しました。

第1回目の今回は、約40人が参加。2人のパネリストにより、国内外の最新のエネルギー政策の動向や、再生可能エネルギーの実践例などが紹介されると、参加者たちは興



環境問題などについてディスカッション

味深そうに聴き入りました。また、参加者からの質問にパ

# 多彩な文化芸術を披露

11月8日・9日、ガレリアかめおか

市内で文化活動をされている団体などの舞台発表や、丹精込めて制作された作品の展示を行う「第39回亀岡市民文化祭」を開催しました。

今年、76団体が参加。舞台の部では、華麗な日本舞踊や美しい音色の大正琴の演奏、豊かなハーモニーが響く合唱などが披露され、日ごろから練習を重ねてきたすばらしい演目に、観客から大きな拍手



琴の演奏に挑戦

ネリストが丁寧に回答するなど、会場が一体となった和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。篠町から参加した田畑信夫さんは「日本は外国と比べると資源が少ない国です。しかし、ここ亀岡は豊かな自然があり、自然再生エネルギーの期待要素があると思います。まずは、自分にできる身近なことから始めたいです」と話されていました。

11月8日・9日、ガレリアかめおか

今年も多くの方が訪れ、ロビーギャラリーでの琴の試奏やお茶席を楽しんだり、展示会場での水墨画や刺しゅう作品、和紙のちぎり絵、工芸盆栽、生け花など幅広い分野の作品を心ゆくまで鑑賞していました。

展示された作品を観ていた山田眞佐子さん(大井町)は、「どの作品も、趣向を凝らした個性のあるものばかりで、見入ってしまいます。素晴らしい作品が一度に観られていますね」と話されていました。

## 遊・You・かめおか ~12月のイベント情報~

### 第1回「輝き」フォーラム 「美術館のあるまちへ」

12月7日(日) 午後2時~4時

奥山理子さん(みずのき美術館)、日比野克彦さん(アーティスト・東京藝術大学美術学部教授)を中心に、「美術館のあるまちとしての亀岡」について語り合しましょう。

- ところ 大本本部 みろく会館
- 問い合わせ 公益財団法人生涯学習かめおか財団 (ガレリアかめおか内) ☎29-2700



登壇者の奥山理子さん

### 写真で振り返る2014年

12月15日(月)~26日(金)

市の広報担当が、今年一年間に撮影した亀岡のお祭りや風景などの写真を展示します。JR亀岡駅をご利用の際は、ぜひご覧になってください。

- ところ JR亀岡駅観光案内所 (駅舎2階南側ショーウィンドウ)



亀岡光まつりなど、約20点の写真を展示します

●ハイ! 広報広聴係です ● 亀岡盆地特有の底冷えと、幻想的な朝霧に包まれる12月を迎えました。何かと忙しい年末ですが、体調を崩さないように注意したいですね。 さて、今月号の3面で「インナーショナルセルフスクール(INS)」事前審査を取材しました。各学校・保育所(園)の先生方の熱心な取り組みや、子どもたちのけがに関する確かな細やかなデータ収集と分析力には本当に驚きました。と同時に、ISS活動を通じて大きくなった子どもたちが、この経験を生かして、亀岡市内外に、安全で安心して過ごせることの大切さを広げていくことを心から願っています。(白崎)



明智がめまる

## 広報クイズ

Q

ヒューマンフェスタ2014のテーマは何でしょう

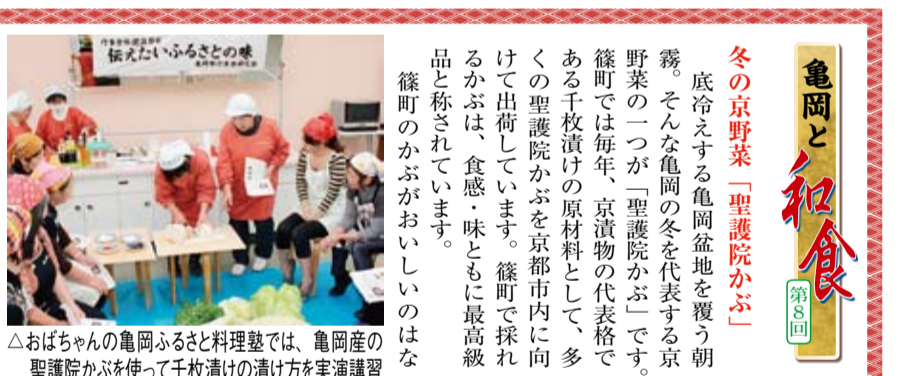
ヒントは、広報紙の中にあります。

締切日 平成26年 12月26日(金) (必着)

はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙「キラリ☆亀岡」の感想を書いて、〒621-8501 (住所不要) 市秘書広報課へ。

正解者の中から抽選で5人に図書カードを差し上げます。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【前月の答え】 「50」でした。 たくさんのおはがき、ありがとうございました。



△おばちゃん亀岡ふるさと料理塾では、亀岡産の聖護院かぶを使って千枚漬の漬け方を実演講習

## 亀岡と和食

冬(第8回)

冬(第8回) 底冷えする亀岡盆地を覆う朝霧。そんな亀岡の冬を代表する京野菜の一つが「聖護院かぶ」です。篠町では毎年、京漬物の代表格である千枚漬の原材料として、多くの聖護院かぶを京都市内に向けて出荷しています。篠町で採れるかぶは、食感・味ともに最高級品と称されています。 篠町のかぶがおいしいのはなぜか。その秘密はよく、新鮮な空気が水はもろろん、亀岡盆地特有の「昼夜の気温の寒暖差」と「朝霧」にある、と言われます。ではなぜ、これらの条件がかぶをおいしく育てるのでしょうか。

一般的に、かぶや大根などの冬野菜は、気温が低くなればなるほど、自分の身を凍結から守ろうと、昼間に光合成をして作った栄養素の糖分を蓄積して、自ら体内で糖を作り出します。それを私たちは「甘くておいしい」と感じるのです。亀岡の冬の冷え込みは、この効果を高めると考えられ、また、朝霧で附着した露は、かぶに「みずみずしさ」を与えます。霧が晴れて太陽が顔を出すと再び光合成を始め、栄養を蓄えます。これを繰り返すことによって、亀岡の聖護院かぶは、おいしく育つのです。 お漬物はもちろん、煮ても焼いてもおいしい聖護院かぶで、冬野菜の魅力を楽しんでみてはいかがでしょうか。